

生

UTCP ワークショップ

生 / 性と権力の制度を読み解く

2008年11月7日(金) 16:30～

東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム1
入場無料/事前登録不要

後藤絵美 (日本学術振興会/UTCP)

「誰のためのヴェールか——現代エジプトにおける宗教言説の変容——」

木村朗子 (津田塾大学)

「文学というアポクリファ——日本中世宮廷社会の性の配置から——」

萱野稔人 (津田塾大学)

「生-権力と国民国家のあいだ——フーコーのレイシズム論——」

コメンテーター:市野川容孝 (東京大学)

司会:内藤まりこ (東京大学大学院博士課程/UTCP)

性

社会が再生産を基盤とするものであるかぎり、「生」は「性」の問題として、権力と不可分に結びついている。「生/性」が、人々を有能/無能者に振り分ける権力装置であるとして、ならば無能であることを根拠に、特定の帰属意識を共有しない共同体の可能性を模索することは可能だろうか。

権力

University
of Tokyo
Center
for Philosophy

共生のための国際哲学教育研究センター (UTCP)

<http://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/>